

ワンデーレスポンス：受注者から提起された現場の問題に対し、発注者が回答期限を設けて速やかに対処する取組。

〈請負工事〉H27年度から取組を開始、〈委託業務〉H26年度から取組を開始

【対象】 〈請負工事 (H29~)〉請負額3,500万円以上の工事、〈委託業務 (H30~)〉全ての測量業務、調査業務及び設計業務

取組状況（試行件数）

R4：5,775件（〈工事〉952件、〈業務〉4,823件）

R4アンケート調査結果の概要

回答数 R4：〈工事受注者〉80名、〈業務受託者〉74名、〈発注者〉57名

【工事受注者】 【業務受託者】

：『適切に実施』の肯定的回答が工事、業務でそれぞれ、90%、89%（前年度比8ポイント減、7ポイント減）、『工程・進捗管理の向上』の肯定的回答が87%、82%（前年度比6ポイント減、10ポイント減）、『取組の有効性』の肯定的回答がともに92%、96%（前年度比1ポイント増、5ポイント増）に対し、『回答予定日』の肯定的回答が工事、業務でそれぞれ、90%、78%（前年度比1ポイント増、4ポイント減）となった。「適切に実施されていない」という回答が増えているが、9割以上でワンデーレスポンスの有効性はあるという回答を得た。

【発注者】：『適切に実施』『回答予定日』の肯定的回答が93%、96%（前年度比4ポイント減、1ポイント増）という結果となった。ワンデーレスポンスの有効性はあるという回答は増加している（概ね9割）。

【R5取組方針】：取組みが浸透しており、過年度に比較して向上がみられ、9割以上が評価している結果となっている。令和5年10月1日以降入札の全ての工事、業務を対象とし、引き続き取り組んでいく。

工事受注者

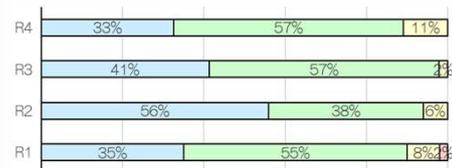
業務受託者

発注者

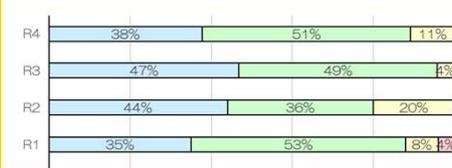
Q1:適切に実施されたか

□全て実施 □概ね実施 □あまり実施されなかった □実施されなかった

「実施・概ね実施」の割合 90% (-8%)



「実施・概ね実施」の割合 89% (-7%)



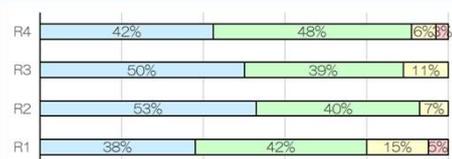
「実施・概ね実施」の割合 93% (-4%)



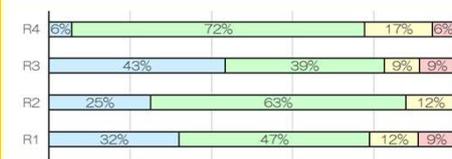
Q2:対応が困難な時、回答予定日を示し、回答されたか（発注者の場合は、「回答予定日」を示し、回答したか）

□回答あり □概ね回答あり □あまり回答がない □回答なし

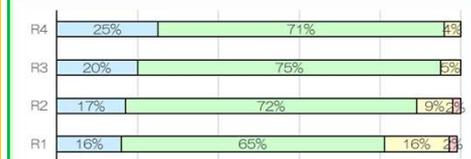
「回答・概ね回答」の割合 90% (+1%)



「回答・概ね回答」の割合は 78% (-4%)



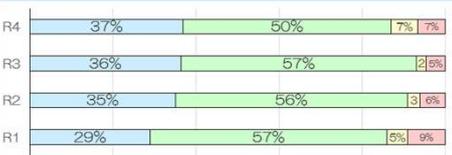
「回答・概ね回答」の割合は 96% (+1%)



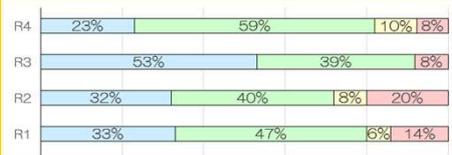
Q3:工程及び進捗管理が向上したか

□向上した □概ね向上した □向上しなかった □分からない

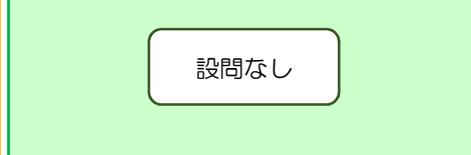
「向上・概ね向上」の割合 87% (-6%)



「向上・概ね向上」の割合 82% (-10%)



「向上・概ね向上」の割合は 96% (+1%)

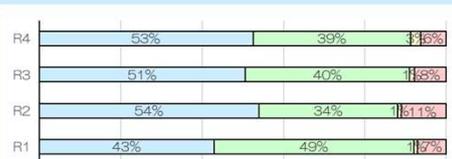


設問なし

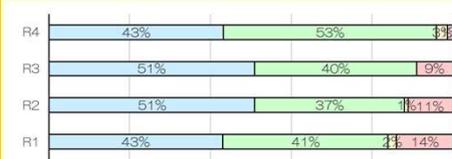
Q4:取組が有効だったか

□有効 □概ね有効 □有効でない □分からない

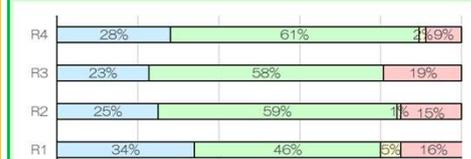
「有効・概ね有効」の割合 92% (+1%)



「有効・概ね有効」の割合 96% (+5%)



「有効・概ね有効」の割合 89% (+8%)



Q5:その他意見・要望等

【凡例】 青色：肯定的な意見など、赤色：改善意見など

- ・実施により工程は大きく改善され、それが品質や原価管理にも多大な影響を与えます。更なる拡大を希望します。
- ・監督員が判断できない案件は、上司との協議を早めに行い結論を出してほしい。
- ・運用における趣旨について、発注者（担当者）の理解促進が必須と考えます。

- ・検討事項の早期解決は業務工程の短縮に有効となるため、今後の継続および拡大は望ましい。
- ・ワンデーレスポンスを意識して、極力はやい回答を日頃して下さったが、関係機関協議などによる回答は依然として遅いため、業務の進捗は向上しなかった。
- ・まだ経験の浅い監督員に対して、回答を急がせる訳にもいかなかった。

- ・組織的、システムの取り組み、問題の解決に向けて迅速な対応をとることは、非常に有効なことであると考えています。
- ・急いで回答して、間違ったものであれば本末転倒になる可能性があると思う。過度に意識させるのはいかがなものかと思えます。